

# 第 14 回 DCプランナー 1 級試験 (2009 年 10 月 11 日実施)

## 《正解・模範解答》

合否通知は 12 月 10 日の予定です。

(社)金融財政事情研究会

試験内容等，記載のない事項についてのお問合せにはお答えできません。

あらかじめご了承ください。

分野 A，B，C，D は以下のとおり

分野 A：わが国の年金制度・退職給付制度

分野 B：確定拠出年金制度

分野 C：投資に関する知識

分野 D：ライフプランニングとリタイアメントプランニング

### 《基礎編》(100 点)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12	問 13	問 14	問 15	問 16	問 17	問 18	問 19	問 20
1	4	3	3	2	3	4	4	1	4	3	2	1	1	2	1	3	2	3	4
A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B
問 21	問 22	問 23	問 24	問 25	問 26	問 27	問 28	問 29	問 30	問 31	問 32	問 33	問 34	問 35	問 36	問 37	問 38	問 39	問 40
3	3	2	3	4	4	1	2	4	2	4	2	2	3	2	4	2	4	3	4
B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
問 41	問 42	問 43	問 44	問 45	問 46	問 47	問 48	問 49	問 50										
4	2	1	2	4	1	2	2	2	2										
C	C	C	C	D	D	D	D	D	D										

《応用編》(100点)

応用編につきましては、総合的な観点を考慮して採点を行います。

【第1問】(20点)

《問51》(B分野)

<答> 自ら(事業主) 運営管理機関 登録

《問52》(B分野)

<答> 当該労働組合(の同意)

厚生年金被保険者(被用者年金被保険者等)の過半数を代表する者(の同意)

《問53》(B分野)

<答> 4万6,000円

モデル賃金のうち、企業型年金の掛金の算定方法において、給与に該当するものは、基本給与、役職手当、技能手当である。

給与：30万円 + 3万円 + 1万円 = 34万円

掛金額：34万円 × 15% = 5万1,000円

A社は、企業年金を実施していないので、拠出限度額は4万6,000円であり、実際に拠出できるのは、4万6,000円である。

【第2問】(20点)

《問54》(A分野)

<答> 30 10

退職給付引当金(=前払年金費用) = 退職給付債務 - 年金資産 - 未認識退職給付債務

であり、年金資産等が退職給付債務を上回った場合、当該超過額は、前払年金費用として借方に計上される。

2008年3月期 = 200 - 180 - 50 = -30 前払年金費用 = 30

2009年3月期 = 230 - 200 - 40 = -10 前払年金費用 = 10

《問55》(A分野)

<答> 会計基準変更時 過去勤務債務

《問56》(A分野)

<答> 50(百万円)

適格退職年金部分の退職給付費用

= 期末退職給付引当金 - {期首退職給付引当金 - (会社支払退職給付 + 掛金)}

= -10 - {-30 - (0 + 20)} = 40(百万円)

中退共部分の退職給付費用

= 要拠出額 = 10(百万円)

したがって、退職給付費用は、40 + 10 = 50(百万円)

【第3問】(20点)

《問57》(C分野)

<答> 大きい 68 95 16

《問58》(C分野)

<答> 期待収益率 6.0% 標準偏差 5.1%

$$\text{期待収益率} = 8\% \times 0.6 + 3\% \times 0.4 = 6.0\%$$

$$\begin{aligned} \text{標準偏差}^2 &= 0.6^2 \times 9\%^2 + 0.4^2 \times 2\%^2 + 2 \times 0.6 \times 0.4 \times (-0.4) \times 9\% \times 2\% \\ &= 26.344 \end{aligned}$$

$$\text{標準偏差} = 5.13\% \quad 5.1\%$$

《問59》(C分野)

<答> 商品B(を選択する)

リスク回避型の投資家は、同じリターンであればリスクの低い運用対象を選択するため、リターンが同じ6%であれば、よりリスクの低い商品Bを選択する。

【第4問】(20点)

《問60》(C分野)

<答> ベンチマーク アクティブ

《問61》(C分野)

<答> 5.21%

$$\text{シャープ・レシオ} = \frac{\text{トータル・リターン} - \text{リスクフリーレート}}{\text{リスク(標準偏差)}}$$

$$A : \frac{4.5 - 0.2}{3.5} = 1.228\% \quad 1.23$$

$$B : \frac{5.8 - 0.2}{5.4} = 1.037\% \quad 1.04$$

$$C : \frac{7.7 - 0.2}{9.2} = 0.815\% \quad 0.82$$

シャープ・レシオは  $A > B > C$  であるから、条件により、Aに60%、Bに30%、Cに10%となる。  
投資するポートフォリオの期待収益率は、 $4.5\% \times 0.6 + 5.8\% \times 0.3 + 7.7\% \times 0.1 = 5.21\%$

《問62》(C分野)

<答> 数値が高いのは商品A

$$\text{インフォメーション・レシオ} = \frac{\text{トータル・リターン} - \text{ベンチマークリターン}}{\text{トラッキング・エラー}}$$

$$A : \frac{4.5 - 4.0}{0.9} = 0.555\% \quad 0.56$$

$$B : \frac{5.8 - 5.6}{1.2} = 0.166\% \quad 0.17$$

$$C : \frac{7.7 - 7.4}{2.6} = 0.115\% \quad 0.12$$

インフォメーション・レシオは  $A > B > C$  の順に高い。

【第5問】(20点)

《問63》(A分野)

<答> 68,000 社会保険料 0.1

《問64》(D分野)

<答> 125(万円)

Aさんの拠出額は毎月5万円なので、年間60万円となる。

そして、拠出期間は20年間、利率は2%なので、20年後(60歳時点)の元利合計は、年金終価係数を使って、  
 $60 \text{万円} \times 24.7833 \text{ (年金終価係数 } 2\%, 20 \text{年)} = 1,486.998 \text{万円 (1,487万円)}$

となる。そして、この金額を65歳まで5年間据え置くことになるので、終価係数を使って65歳時点の元利合計額を求める。

$1,486.998 \text{万円 (1,487万円)} \times 1.1041 \text{ (終価係数 } 2\%, 5 \text{年)} = 1,641.7944918 \text{万円 (1,642万円)}$

さらに、この金額を15年間で一定額ずつ取り崩すので、年金現価係数を使って、

$1,641.7944918 \text{万円 (1,642万円)} \div 13.1062 \text{ (年金現価係数 } 2\%, 15 \text{年)} = 125.268\dots \text{ (125万円)}$

したがって、約125万円。

《問65》(A分野)

<答> Dの18歳到達時年度の末日(3月31日)(まで)